

施策評価シート（平成30年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画中期プラン	政策No.	2-2	政策名	生活基盤の充実	政策の 目指す姿	生活に必要な基盤が整い、快適に暮らしています	施策 主管課	都市政策課	施策主管 課長名	佐々木 賢二
	施策No.	2	施策名	公共交通の確保	施策の 目指す姿	公共交通が利用しやすくなっています	関係課名	観光課、地域振興課(大迫)		
	現状と課題 ・バス事業は、経費に比して利用者が著しく少ない状況が続いています。 ・市街地循環バス(ふくろう号)は、利便性の良さから増便が求められています。 ・市内JR駅周辺の駐車場が不足しています。 ・いわて花巻空港を発着する国内線の利用は概ね順調ですが、冬季利用率の落ち込みが著しい状況にあります。また、訪日外国人観光客にとって便利な発着便が少ない状況にあります。									

◎ 前年度の評価の振り返り

(前年度評価時の今後の方向性)

- 各総合支所と連携しながら幹線路線バスや予約応答型乗合交通の利用促進策を実施する。
- 花巻市地域公共交通網形成計画に基づき計画的に対応策を実施するとともに、地元との協議、説明を積極的に行う。
- 岩手県及び岩手県空港利用促進協議会などと連携し、県内及び就航都市での利用促進PRの強化、空路を利用した旅行商品の造成につながる働きかけを行う。

(反映状況)

- 幹線路線である土沢線を利用して賢治記念館等(4館)を訪れた方に対する入館料の免除、大迫花巻線の乗車料金の上限設定、大迫石鳥谷線の企画バスの実施、予約乗合バスの利用方法の体験説明会の実施など幅広い取り組みを行った。
- 10月から市街地循環バス(星めぐり号)の増便を行ったほか、民間路線バスが廃止された大迫地域に当日予約が可能な予約乗合バスを導入した。また、導入に際しては行政区単位での説明会のほか希望があった場合は更に小さい単位での説明会も実施した。
- 岩手県及び岩手県空港利用促進協議会が主催する県内及び就航都市等での空港利用促進に係るPR活動、及び国際定期便化に向けた取り組みに積極的に参画した。

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

(1)利便性の高い公共交通の確保

- 予約応答型乗合交通の更なる拡充
- 市街地循環バス(星めぐり号)の増便とバスロケーションシステムの導入
- 新花巻駅駐車場の整備の促進(照明施設・臨時駐車場の整地等)

(2)航空便の利用促進

- 航空便の増便に向けた関係機関への要望活動
- ・全国民間空港関係市町村協議会や岩手県市長会を通して国や航空会社への要望実施
- 空港利用促進のためのPR
- ・岩手県空港利用促進協議会が主催する県内及び就航都市等でのPR実施
- 岩手県が行う国際定期便及びチャーター便等の誘致促進事業への協力
- ・岩手県をはじめ関係機関が行う台湾・香港セールス等への参加

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1
公共バス(市運営、民間運営)の利便性に満足している市民の割合	市民の身近な公共交通であるバス(民間運営、市運営)の利便性満足度を示す指標	市民アンケート測定「普段の生活の中で利用する下記項目の基盤整備状況に満足していますか？」④公共バス(民間路線バス、ふくろう号、デマンドタクシー等)(1)満足、(2)どちらかといえば満足、(3)どちらともいえない、(4)どちらかといえば不満、(5)不満、(1)(2)選択数をカウントし、満足度を測定 ※分からない、無回答はバス利用者・利用希望者とみなさず分母に含めない。	%	目標値	50.0	50.0	43.0	43.0	43.0	43.0
				実績値	46.5	43.0	39.2	44.7	42.7	
花巻空港年間利用者数	空港(航空機)の利用状況を示す指標(平成28年度以降、国際定期チャーター便運航が予定されておらず、国際定期チャーター便が運航されなかった直近の平成25年度利用者数を成行値とする)	岩手県空港課(岩手県空港利用促進協議会)が集計し発表するもの。(国際定期便4路線と国内・国際チャーター便の利用者数)	万人	目標値	40.4	40.4	40.4	42.3	43.1	43.1
				実績値	39.7	39.9	41.7	44.1	48.2	

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
B	<p>■成果指標「公共バス(市運営、民間運営)の利便性に満足している市民の割合」…【達成度b】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地循環バスの増便や利用促進などの取り組みをしているものの、アンケート回答者の使いたい路線等に必ずしも当てはまらないことが要因と考えられる。 <p>■成果指標「花巻空港年間利用者数」…【達成度a】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内4路線で前年比6.7%の増加となったほか、昨年8月に就航した台湾定期便に続き、平成31年1月から上海への定期便も就航したことから、全体では前年比9.3%の増加となり、花巻空港利用者数は8年連続の増加となった。

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名 事業内容(活動実績)	担当課	施策への貢献度		
			対象 直結度	意図 補完	成果
1	空港利用促進事業 岩手県空港利用促進協議会等への負担及び補助、関係機関と連携した利用促進活動の実施(航空会社、国等への要望活動9回、関係団体との協議、検討会9回)	観光課	間接・少数	間接・補完	A
2-1	公共交通確保対策事業 市街地循環バス・大迫花巻連絡バス・中部病院連絡バス・予約応答型乗合交通運行補助(市街地循環バス利用者数:66,488人、予約応答型乗合交通利用登録者数:3,469人)	都市政策課	一致	直結	B
2-2	公共交通確保対策事業 民間路線バス運行補助	都市政策課	一致	直結	B
2-3	公共交通確保対策事業 大迫バス待合所新設工事設計業務、仮設トイレ2基設置	地域振興課(大迫)	間接・少数	間接・補完	-
3	都市施設機能改善事業 新花巻駅東側駐車場の照明改修及び臨時駐車場整地、駐車場全体の適正管理(照明改修:11基、整地:駐車可能台数78台)	都市政策課	間接・少数	間接・補完	-

5 施策を構成する事務事業の検証

<p>(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)</p> <ul style="list-style-type: none"> バス事業は、必要経費に比して利用者が著しく少ない状況にあり、赤字補てんのため多額の補助金を交付している。 <p>(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国県補助バス路線については、補助対象基準の被災地特例が終了することが予想されることから、地域間を結ぶ幹線路線の維持ため利用促進策に更に取り組む必要がある。 沿岸地域等、市外からの新花巻駅駐車場利用者の増加を見据え駐車台数の拡充に向けた取り組みをする必要がある。 花巻空港年間利用者数は8年連続の増加となっているものの、冬季利用率の低下の課題があることから、利用者の季節変動を少なくする必要がある。 <p>(新たに取り組むべき事業はないか)</p> <ul style="list-style-type: none"> 西南地域の民間バス路線廃止に備え、10月からの予約応答型乗合交通の導入に向け準備を進める。 補助要件割れが見込まれる幹線路線バスである土沢線や大迫石鳥谷線の利用者数を増やすため、様々な利用促進策を実施する。 新花巻駅の有料駐車場の拡充に向け整備のための設計を行う。

6 施策の総合的な評価

<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 花巻空港年間利用者は、冬季利用率の低下の課題があることから、利用者の季節変動を少なくする必要がある。 民間路線バスの利用者は増加しておらず、路線の維持のためにも更なる利用促進策を講じる必要がある。 <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 岩手県及び岩手県空港利用促進協議会などと連携し、県内及び国内外就航都市での利用促進PRの強化、空路を利用した旅行商品の造成につながる働きかけを行う。 各総合支所と連携しながら幹線路線バスや予約応答型乗合交通の利用促進の取組みを継続して行うとともに、花巻市地域公共交通網形成計画に基づき計画的に対応策を実施し地元へのPRを積極的に行う。
